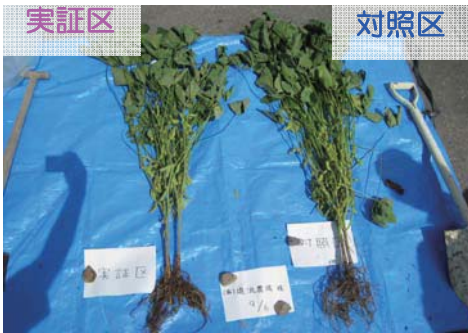


●「大豆の根を見る会」レポート

9月6日、各農業普及指導センターの方々と(株)クボタの有原顧問とともに各実証圃を巡回し、「大豆の根を見る会」を行いました。その様子を一部ご紹介します。



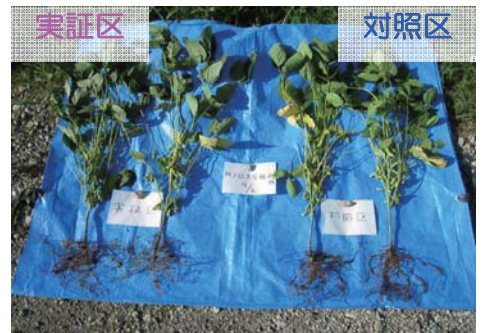
新潟 (有)道湯農場様



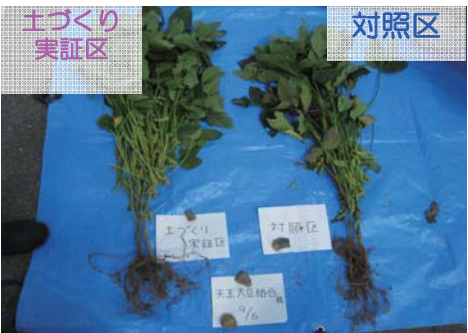
長岡 (有)ホープイン中沢様



上越 (井ノ口大豆組合様)



新発田 (天王大豆組合様)



新潟では、実証区・対照区で大きな違いはありませんが、どちらも生育は順調で、平均してさや数が多かったです。

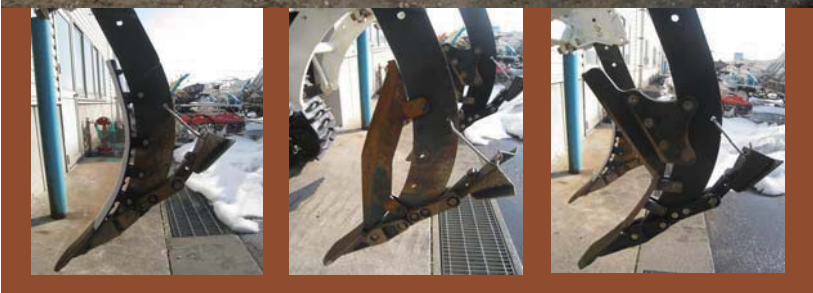
長岡では、地上部だけでなくさや数にも大きな違いがあり、ハーフソイラによる排水対策の効果が目で見てわかります。

上越では、非常に豆に厚みがあり、100粒重が大きいと期待しています。排水対策 + うね間かん水をこまめに(4回)行っていただいた効果ではないかと思えます。

新発田では、スタブルカルチによる深耕(16cm)を行った土づくり実証圃で分枝数・さや数が増えていました。

いよいよ収穫が近付いています。有原顧問含め今回参加した関係者の感想としては、今年こそ300kg達成できるのでは…!と大きく期待しています。

●土の中はこうなってます~ハーフソイラ・サブソイラ・フラソイラ~



大豆300Aプロジェクトではおなじみになってきたハーフソイラとサブソイラですが、土の中ではどうなっているのか?わかりやすいのが左の写真です。

作業跡の見た目は同じハーフソイラとサブソイラですが、土の中の破碎効果はこんなに違うんですね。また、土を上上げるフラソイラは畑の土質改善に最適です。

県内では春秋に乾かない圃場をなんとかしたいということで、サブソイラ・ハーフソイラがここ1~2年で非常に普及しています。今年も、早生を刈り終わった圃場から順番にサブソイラ作業をしているお客様を見かけます。

ぜひ今秋は、大豆に限らず水稲でも効果を試してみませんか?

●大豆コンバイン*収穫作業のポイント*

いよいよ大豆の収穫作業が近付いてきました。

収穫作業時、わからない(めんどくさい)ので大豆コンバインの調整はしないというお客様も多いのですが、せっかくの高品質大豆を作っても、収穫時にコンバインの調整が悪いせいで収穫ロスや汚粒が出てしまってもったいない!

下表に、基本的な大豆コンバインの調整の仕方についてご紹介します。「こぎ室送じんレバー」「シーブ調節レバー」「トウミ調節レバー」を上手に調整しながら、ぜひ大豆コンバインの収穫のプロになりましょう。

こんな時どうする...??

状況	原因	対策
豆が汚れる	<ul style="list-style-type: none"> ●青立ち等が脱こくに絡まり、茎の汁が出てしまう ●必要以上に作物が脱こく内にとどまり、茎をもんでしまっている(流れが悪い) 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒青立ち・雑草は事前に抜いておく。脱こくの網に絡まっている青い茎を取り除く。 ⇒「こぎ室送じんレバー」を開け気味にする。
後ろから豆が出る	<ul style="list-style-type: none"> ●脱こく内の作物の流れが良すぎて、豆が後ろに排出されてしまっている ●シーブ(選別板)の開度が閉じ気味で豆が1番に落ちていない(刈り遅れで脱粒しやすい場合等) ●トウミ(ゴミを飛ばす風)が強すぎる(豆の粒が小さい場合など) 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒「こぎ室送じんレバー」を閉め気味にする。 ⇒「シーブ【前】調節レバー」を開け気味にする。 ⇒「トウミ調節レバー」を弱くする。
ゴミの混入が多い	<ul style="list-style-type: none"> ●脱こく内の前側に作物が集中して流れが悪くなり、選別が悪くなっている ●シーブ(選別板)の開度が開きすぎていて、1番へゴミも一緒に落ちている ●トウミ(ゴミを飛ばす風)が弱すぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒「こぎ室送じんレバー」を開け気味にする。 ⇒「シーブ【前】調節レバー」を閉め気味にする。 ⇒「トウミ調節レバー」を強くする。

高品質大豆収穫のためには、機械の調整も大きなポイント!



●「中間検討会&大豆畑作機械展示会」を開催しました



8月5日、燕三条地場産業センターにて『新潟クボタ大豆研究会 中間検討会&大豆畑作機械展示会』を開催し、県内外から300名以上のお客様にご来場いただきました。

今年も新潟県農林水産部の岩津専技様より、実証3年間のデータを含め大変内容の濃いご講演をいただきました。

(株)クボタの有原顧問からは、他県の事例や大豆の根の写真を交えながらお話いただきました。

実証圃にご協力頂いています生産者の方々を交えた総合討議では、会場の皆様からもご参加いただきました。



機械展示では、大豆、エダマメ、ネギ、タマネギ、ニンジン、そば、水稻、土づくりをメインに関連機械を展示致しました。今年は、肥料農薬・活力資材の相談コーナー等も充実させ、たくさんのお客様より熱心にご覧いただいていたました。ご来場ありがとうございました!